様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １０ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ１１２７２

研究課題名（和文）行政保健師のグローバル・コンピテンシー強化のための教育プログラムの開発と検証

研究課題名（英文）Development and validation of an educational program to enhance the global competency of public health nurses

研究代表者
小寺　さやか（Kotera, Sayaka）

神戸大学・保健学研究科・准教授

研究者番号：３０５０９６１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、グローバル社会において保健師に求められるコンピテンシーの現状を明らかにするとともにそれらを強化するための教育プログラムを開発し，その効果を検証することを目的とした。保健師のコンピテンシーは、外国人住民集団を対象とした支援や国際的動向を把握することに関連したコンピテンシーが低い傾向であった。保健師を対象としたセミナーを実施したところ、実施前と比較して保健師のコンピテンシー及び異文化間感受性尺度の平均得点はいずれも有意に向上した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の成果は、これまで十分に明らかになっていなかったグローバル社会で求められる保健師のコンピテンシーの現状を可視化したことである。また、コンピテンシーに基づいて構成した教育プログラムを開発・実施し、学習効果の可能性を示した。これまで、多様な文化的背景を持つ住民と関わる保健師を対象とした教育プログラムは存在しない。本教育プログラムを普及することで，保健師の自信と実践能力の向上が図れるだけでなく，ひいては在住外国人の健康レベルの向上と国内の健康格差の改善につながることが期待できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the current status of competencies of Japanese public health nurses required in an increasingly globalized society and to develop an educational program to enhance these competencies. The public health nurses exhibited lower levels of competencies related to supporting for foreign populations and understanding of global health trends. A comparison of the results before and after the seminar for public health nurses demonstrated a significant improvement in overall competency and positive feelings toward different cultures.

研究分野：公衆衛生看護学、国際保健学

キーワード：行政保健師　　グローバル社会　コンピテンシー　指標　教育プログラム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) 保健師を取り巻く社会情勢の変化

日本社会のグローバル化に伴い，地域住民に多様な文化的背景を持つ人々が増加し[1]，行政保健師（以下，保健師）にも多様性の理解や国際性が求められている。また，在住外国人の健康課題として，新興・再興感染症，メンタルヘルス，生活習慣病等の慢性疾患，児童虐待や子どもの不就学等母子及び学校保健上の課題が報告されており[2]，これらは全て保健師が取り組むべき地域保健上の主要課題である。さらに，世界的視野に立つと，感染症の世界的大流行の懸念や頻発する自然災害，少子高齢化，非感染性疾患の増加等国内の健康課題は地球規模の健康課題であり，保健師が世界の動向に注目しながら活動することは回避できない状況である。

(2) 保健師に求められるコンピテンシーと教育的課題

研究者らは保健師を対象にした質的研究[3]により，グローバル社会で求められる保健師のコンピテンシーとして，コミュニケーション能力だけでなく，人々の文化的な信念，行動，ニーズを考慮に入れながら効果的なヘルスケアを提供するための資質・能力である異文化間能力，社会的公正から対象の健康を支援できる能力，国際的動向から健康課題を予測する能力などが必要であることを明らかにしてきた。しかし，これらは一部の保健師の実践能力に留まっており，保健師間に格差がある。グルーバル化が加速する日本社会において，全ての保健師の実践能力開発に向けた取り組みは喫緊の課題であるものの，保健師教育において支援対象である住民の多様性は殆ど考慮されておらず，実践的な能力育成は行われていない。

２．研究の目的

(1) グローバル社会で求められる保健師のコンピテンシー（以下，保健師のグローバルコンピテンシー）を自己評価できる指標を作成し，コンピテンシーの現状を明らかにすること。

(2) グローバル社会において保健師に求められる実践能力を強化するための教育プログラムを開発し，その効果を検証すること。

３．研究の方法

(1) 評価指標の作成と実態の明確化

①内容妥当性の検討

国際看護・国際保健の教育に携わっている又は在住外国人の支援をテーマに研究されている保健師課程の教育研究者 5 名，複数の在住外国人支援経験を持つ行政保健師 4 名及び大学院生 1 名の計 10 名を対象に自記式質問紙調査を実施し，「グローバル社会に対応できる保健師に求められる実践能力」27 項目について，「妥当である（4 点)」～「妥当でない（1 点)」の 4 段階で評価を求めた。Polit et al (2007) が論ずる内容妥当性検証の方法に準じ，各項目の内容妥当性指標（item-level content validity index： I-CVI）を 0.78 以上，指標全体の内容妥当性指標（scale content validity index： S-CVI）を 0.9 以上に設定し算出した。

②信頼性の検討と実態把握

対象者は自治体の常勤保健師のうち，現在地区活動に従事し，複数回の外国人住民の支援を経験している者とした。外国人人口が 2 千人以上でかつその割合が 2.2%（全国値）以上の自治体又は行政区を管轄する保健所・保健センター計 429 か所に所属する保健師 1～2 名に無記名による自記式質問紙調査への協力を依頼した。調査内容は，基本属性，外国人住民への支援経験，海外での生活経験，語学力，異文化看護等に関する学習経験，先行研究で明らかとなった保健師のグローバルコンピテンシー（7 能力 29 コンピテンシー)，日本語版異文化間感受性尺度（22 項目）[4]，保健師の専門能力（13 項目）[5] であった。分析には，記述統計を用いた。

(2) 教育プログラムの開発

関西圏域の自治体を通して外国人住民の支援に携わった経験を持つ保健師を募集し，対面によるセミナー（2 回シリーズ）を試行した。セミナーは先行研究で明らかとなった保健師のグローバルコンピテンシーの 7 能力と関連する講義，課題設定，事例検討等から構成した。評価として，実施後のアンケート（n=14）及びどちらか一方または両日に参加し，研究に同意が得られた 10 名（うち両日参加は 7 名）のデータを分析した。セミナー実施前と実施 1 か月後に先行研究で明らかとなった保健師のグローバルコンピテンシー（29 項目）及び日本語版異文化間感受性尺度（22 項目）の自己評価を依頼し，その変化をウィルコクソンの符号順位検定にて分析した。

４．研究成果

(1) 評価指標の作成と実態の明確化

①内容妥当性の検討

10 名全員から有効回答が得られた。23 項目の I-CVI の範囲は 0.80 から 1.00 であった。23

項目中 12 項目については全員が 3 又は 4 を選択していた。また，S-CVI は 0.90 であり基準を満たしていた。対象者からの意見に基づき項目を検討した結果，「外国人対象者の理解度や社会文化的特性に合わせてセルフケアを支援する」「効果的に通訳を活用する」の 2 項目については，意味内容から各々2 つの項目に分け，最終的に 29 項目の指標を作成した。I-CVI 及び S-CVI はいずれも基準を満たしており，不採択とする項目はなかった。追加した 2 項目を含めたグローバル社会で求められる保健師の実践能力 29 項目の内容妥当性が確保された。

②信頼性の検討と実態把握

210 名から回答が得られ，208 名を有効回答とした。対象者の年代は 30 歳代（30.8%），所属は市町村（32.2%）が多くを占めた。外国人住民の支援頻度は「月に 1～2 回」と回答した者が 48.1%，これまでに継続支援した外国人住民の数は「10 人以上」が 53.4%で最も多かった。保健師のグローバルコンピテンシー29 項目全体の Cronbach α係数は 0.927 と高い信頼性が得られた。各コンピテンシーの平均値が 4.0 以上（ややあてはまる）の割合は，個人・家族の文化的特性に配慮した支援を提供する能力 6 項目中 5 項目，言語バリアに対応する能力 5 項目中 4 項目，外国人住民の権利を理解し擁護する能力 5 項目中 4 項目であった。一方で，外国人住民の健康課題をアセスメントする能力 3 項目，関係機関と協働しながら外国人住民の健康課題を解決する能力 5 項目，国際的動向から国内で起こりうる健康課題を予測する能力 3 項目，国際社会における公衆衛生看護の役割を思考する能力 2 項目は全ての平均値が 4.0 未満であった。（表 1）

外国人対象者の文化的理解やコミュニケーション，権利擁護といった個別支援レベルで必要なコンピテンシーは比較的高いが，コミュニティ及びグローバルレベルでのコンピテンシーは低い傾向であった。多文化共生など外国人住民を含めた健康的な地域づくりの促進や COVID-19 の経験等を踏まえ，国際的動向に注視しながら活動する必要性が示唆された。

表1 グローバル社会で求められる保健師のコンピテンシー29項目の記述統計 n=208

実践能力		コンピテンシー	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Ⅰ 個人・家族の文化的特性に配慮した支援を提供する能力	Ⅰ	1 個人特性と文化的特性から外国人対象者の健康と生活をアセスメントする	1	5	4.1	0.785
		2 外国人対象者の母国の情報（社会経済、保健医療サービス、文化、慣習など）を支援に活用する	**1**	**5**	**3.6**	**1.027**
		3 外国人対象者の文化や価値観（家族、健康、仕事など）の違いを理解する	2	5	4.3	0.702
		4 外国人対象者の日本語理解と生活に応じた支援者を把握する	1	5	4.4	0.688
		5 外国人対象者の理解度や社会文化的特性に合わせてセルフケアを支援する	1	5	4.1	0.743
		6 外国人対象者の主体性を重視してかかわる	2	5	4.2	0.764
Ⅱ 言語バリアに対応する能力	Ⅱ	7 言葉が通じなくても外国人対象者の思いを理解しようと努力する	3	5	4.7	0.511
		8 外国人対象者の日本語理解にあわせた言語・非言語コミュニケーションを用いる（翻訳ツール、やさしい日本語を含む）	3	5	4.7	0.512
		9 外国人対象者を支援するために母国語・外国語の媒体を活用または作成する	1	5	4.2	1.000
		10 通訳者を介して外国人対象者と適切にコミュニケーションを図る	1	5	4.2	0.935
		11 外国人対象者を支援するために医療通訳の必要性を判断し活用する	**1**	**5**	**3.6**	**1.262**
Ⅲ 多様な文化的背景をもつ人々の権利を理解し擁護する能力	Ⅲ	**12 外国人対象者を支援するために在留資格と適用可能な社会保障制度を把握する**	**1**	**5**	**3.7**	**1.025**
		13 外国人住民/対象者に対し国籍に関係なく地域住民として公平にかかわる	2	5	4.5	0.688
		14 外国人住民/対象者の考えや意向を把握する	2	5	4.4	0.639
		15 外国人住民/対象者の権利を尊重してかかわる（代弁、説明責任、権利保障など）	2	5	4.3	0.739
		16 外国人住民の社会的脆弱性と健康への影響を理解する	2	5	4.1	0.726
Ⅳ 多様な文化的背景をもつ住民集団（外国人住民）の健康課題をアセスメントする能力	Ⅳ	**17 外国人住民の動向（人口動態、在留目的など）とその背景を把握する**	**1**	**5**	**3.8**	**0.982**
		18 地域における外国人コミュニティの特徴と生活環境を把握する	**1**	**5**	**3.8**	**0.924**
		19 外国人住民の顕在・潜在化している健康課題とその背景を明らかにする	**1**	**5**	**3.5**	**0.938**
Ⅴ 関係機関と協働しながら多様な文化的背景をもつ住民集団（外国人住民）の健康課題を解決する能力	Ⅴ	**20 外国人住民の支援にかかわる地域組織や関係機関の情報を収集する**	**1**	**5**	**3.6**	**0.984**
		21 外国人住民の支援にかかわる地域組織や関係機関と連携・協働する	**1**	**5**	**3.5**	**1.081**
		22 自組織内外で外国人住民を支援するために必要な体制を整える	**1**	**5**	**3.1**	**1.104**
		23 外国人住民の健康課題を解決するために必要な社会資源を考える	**1**	**5**	**3.5**	**1.058**
		24 外国人住民と地域社会の相互理解とつながりを支援する	**1**	**5**	**3.2**	**1.054**
Ⅵ 国際的動向から国内で起こりうる健康課題を予測する能力	Ⅵ	**25 感染症の国際動向から今後懸念される健康課題を予測し予防策を考える**	**1**	**5**	**3.0**	**1.173**
		26 国内外の社会動向に関心を持ち地域の健康課題への影響を考える	**1**	**5**	**3.3**	**1.040**
		27 諸外国の保健医療施策を把握する	**1**	**5**	**2.6**	**1.144**
Ⅶ 国際社会における公衆衛生看護の役割を思考する能力	Ⅶ	**28 地球規模の健康課題を理解する**	**1**	**5**	**2.5**	**1.133**
		29 国を超えた公衆衛生の向上のために必要な取組みを考える	**1**	**5**	**2.3**	**1.082**

(2) 教育プログラムの開発

セミナー参加者の約半数は都道府県の保健師であり，参加後のアンケートにおいて参加者全員が「満足している」と回答していた。研究協力者の保健師経験年数は，平均 16.5 年（最小 1 年，最大 39 年）であった。セミナー参加前と比較して参加 1 か月後の保健師のグローバルコンピテンシーの合計点は有意に増加した（$p<0.05$）。また，日本語版異文化間感受性尺度得点は，セミナー参加前と比較して 1 か月後の評価では有意に増加した。下位項目別にみると，実施前と比較して 1 か月後に「異文化への肯定的感情」が有意に増加した（$p<0.05$）。（図 1，図 2）

セミナー参加前と比較して，保健師のグローバルコンピテンシー及び文化への肯定的感情が有意に向上したことから，一定の学習効果が得られたと考える。一方で，参加者が少なかったことから，セミナーの開催方法の工夫や SNS の活用など周知方法を検討することが課題として挙げられた。

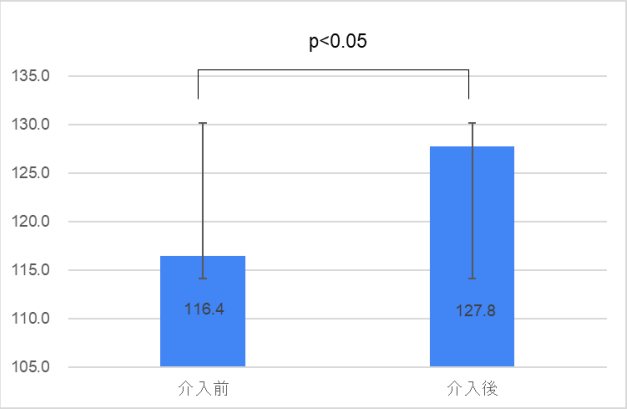

図１　保健師のグローバルコンピテンシー平均値の変化

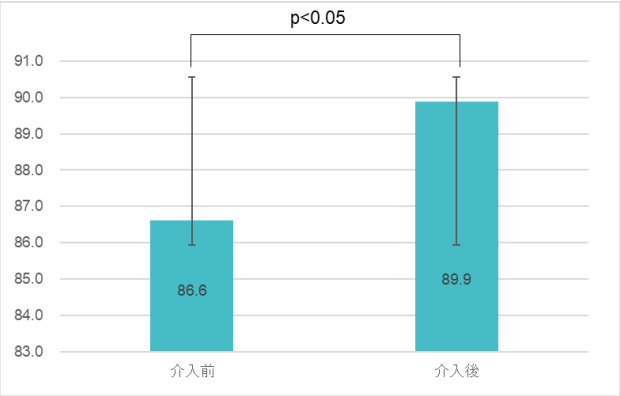

図２　日本語版異文化間感受性尺度平均得点の変化

＜引用文献＞
1)　出入国在留管理庁．2023 年版「出入国在留管理」日本語版．
https://www.moj.go.jp/isa/policies/policies/03_00082.html（2024 年 6 月 10 日アクセス可能）
2) 瀧尻明子．多文化共生．田代順子，監修．ワークブック国際保健・看護基礎論．東京：PILAR PRESS．2016;101-126.
3) Kotera Sayaka, Iwamoto Saori, Tanaka Yuko, Nakaseko Emi, Inoue Kiyomi. Public health nurses' competency required for globalization in Japan: A qualitative study. グローバルヘルス合同大会プログラム・抄録集 2020:146.
4) 鈴木ゆみ，齊藤誠一．異文化間感受性尺度日本語版作成の試み．神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要．2016；9(2)：39-44.
5) 公益社団法人日本看護協会．平成 30 年度 厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業　保健師の活動基盤に関する基礎調査報告書．2018.
https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/senkuteki/2019/hokenshi_katsudokiban.pdf（2024 年 6 月 10 日アクセス可能）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 Sayaka Kotera, Saori Iwamoto, Yuko Tanaka, Kiyomi Inoue, Emi Nakaseko
２．発表標題 Content Validity of a Questionnaire for Assessing the Competencies of Japanese Public Health Nurses required in an Increasingly Globalized Society
３．学会等名 The 14th International Nursing Conference (INC)（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Sayaka Kotera, Saori Iwamoto, Yuko Tanaka, Kiyomi Inoue, Emi Nakaseko
２．発表標題 Intercultural Sensitivity and Associated Factors Among Public Health Nurses in Japan
３．学会等名 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) Conference（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 小寺さやか，岩本里織，田中祐子，井上清美，中世古恵美
２．発表標題 グローバル社会で求められる保健師のコンピテンシーの現状と課題
３．学会等名 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
４．発表年 2024年

１．発表者名 Sayaka Kotera, Saori Iwamoto, Yuko tanaka, Emi Nakaseko, Kiyomi Inoue,
２．発表標題 Public Health Nurses’ Perceived Attitude or Skills Required to Provide Culturally Sensitive Care to Immigrants in Japan: A Qualitative Study
３．学会等名 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 吉岡千夏，小寺さやか，内村利恵
２．発表標題 外国人結核患者に対するDOTS(Directly Observed Treatment、Short-course)における保健師の支援の特徴
３．学会等名 第9回日本公衆衛生看護学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Sayaka Kotera, Saori Iwamoto, Yuko Tanaka, Emi Nakaseko, Kiyomi Inoue
２．発表標題 Public health nurses’ competency required for globalization in Japan: A qualitative study
３．学会等名 グローバルヘルス合同大会2020
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	中世古　恵美 (Nakaseko Emi) (00513425)	関西国際大学・保健医療学部・准教授 (34526)	
研究分担者	田中　祐子 (Tanaka Yuko) (10535800)	徳島大学・大学院医歯薬学研究部（医学域）・准教授 (16101)	
研究分担者	岩本　里織 (Iwamoto Saori) (20321276)	神戸市看護大学・看護学部・教授 (24505)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	井上　清美 (Inoue Kiyomi) (20511934)	姫路獨協大学・看護学部・教授 (34521)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関